

## ニューヨーク市の長期計画「PlaNYC」

ニューヨーク事務所

### 1 ニューヨーク市政府の長期計画

日本の多くの自治体では、それぞれの地域が抱える課題の解決に向け、中・長期的視点に立った長期プランを作成している。たとえば、私の派遣元である東京都では、2011（平成 23）年 12 月に、「2020 年の東京」計画を策定した。

（参考：[http://www.chijihon.metro.tokyo.jp/tokyo\\_of\\_2020/index.html](http://www.chijihon.metro.tokyo.jp/tokyo_of_2020/index.html)。）

ここ、ニューヨーク市政府も同様に、長期計画「PlaNYC」を 2007 年 4 月に発表した。名称の PlaNYC は Plan（計画）の「n」と NYC（ニューヨーク市）の「N」を掛けた洒落である。

PlaNYC は、2030 年までを視野にいれ、土地利用、上水道、交通、エネルギーなど、いわゆるハード面における現在の課題とその解決策の方向性を示したもので、150 ページにも及ぶ長大なものである。進捗状況は 1 年に 1 度、レポートとして公表されている。計画自体は 4 年ごとに見直しされることとなっており、昨年（2011 年）4 月に、改訂版の「PlaNYC2011」が発表された。

### 2 「PlaNYC2011」の内容

「PlaNYC2011」は、2007 年版と同様、インフラの整備に関する方向性を示しており、

- 1、 Housing and Neighborhoods  
（住宅と住宅地域）
- 2、 Parks and Public Space  
（公園と公共スペース）
- 3、 Brownfields  
（汚染された工場跡地等の再開発）
- 4、 Waterways （水路・水辺空間）
- 5、 Water Supply （上水道）
- 6、 Transportation （交通）
- 7、 Energy （エネルギー）
- 8、 Air Quality （大気）
- 9、 Solid Waste （廃棄物）
- 10、 Climate Change （気候変動）



PlaNYC 2011 表紙

といった内容となっている。

「PlaNYC2011」の冒頭部分に、2007 年版の成果が示されている。その一部をご紹介します。

「自分たちの街ニューヨークが 2030 年にどのような姿になっていたらよいか、4 年前、我々は問いかけた。

人口増加、老朽化する社会基盤、気候変動、そして経済発展は、ニューヨークという都市の成功と市民の生活の質に課題を投げかけていた。しかし、これらの変化に、我々がいかに自分たちの行動により対応していくかが、自分たちの将来を左右するのであるとわかった。

我々は、これらの課題に対応し、より環境にやさしくよりすばらしいニューヨーク (Greener, Greater New York) を作るための大胆な計画として、この PlaNYC を策定した。

この取組は大きな成果を生み出した。

たった 4 年で、既存の公園を整備しながら 200 エーカー（約 80 ヘクタール）以上の公園スペースを拡張した。6 万 4 千戸以上のアフォードブル・ハウジング（多様な所得層に



マンハッタンの夜景

じた入手しやすい適正価格の住宅）を建設または維持させた。ニューヨーク市民に多様な交通機関を提供した。既存の建物をよりエネルギー効率の良いものとするため、意欲的な法律を施行した。その結果、温室効果ガスの排出量は、2005 年の水準と比べ 13% 減少した。

今こそ、更なる取組を進めなければならない。

この 4 年間の進展と教訓をもとに、最新のプランをここに提示する。」

（「PlaNYC2011」3 ページより。本稿執筆者による仮訳）

実際のところ、この PlaNYC に基づいて、さまざまな取り組みがニューヨーク市政府によって行われている。これまでの業務報告で何度かご紹介した、市バスの快速サービス「セレクト・バス・サービス」もその一つだ。2007 年版のプランでその必要性が示されたことを受け、翌年にはバス事業者である MTA が「セレクト・バス・サービス」を発表。2010 年には最初の「セレクト・バス・サービス」が開始している。「PlaNYC2011」には、バス路線をはじめ、地下鉄など更なる公共交通機関の拡充について、その具体的な計画が示されている。

### 3 当事務所での取り組み

当事務所では、今年（2012 年）2 月から「PlaNYC2011」の日本語への翻訳作業を進めている。一部は当事務所の職員が直接翻訳作業を行い、一部は翻訳業者に委託をしている。成果物を監訳・監修する際には、日本の自治体での行政実務経験がどうしても必要となるので、派遣元での経験を活かして作業を進めているところだ。



ニューヨーク市庁舎

先日、ニューヨーク市の計画調整部門に、当事務所で日本語訳に取り掛かったことを伝えたところ、大変歓迎され、原典に掲載されている図表等を提供していただける、とまでおっしゃっていただいた。

小職は 3 月いっぱい当事務所での任期が満了する予定であるが、より質の高い翻訳ができるよう、帰任間際の最後まで、全力で努力したい。

参考：PlaNYC ウェブサイト（ニューヨーク市政府ホームページ）

<http://www.nyc.gov/html/planyc2030/html/home/home.shtml>

（鈴木元所長補佐・東京都派遣）

CLAIR